

重症集中ケア研究会たより

第10号：発行 2005年1月

発行人：杉澤 栄

編集：大石・米山・山本・楠



新年あけましておめでとうございます！

厳しい寒さが続いており、暖かい春の季節が待ち遠しい季節となりました。2005年という新しい年を迎え、会員の皆様はますますのご活躍をされていることと思います。

さて、昨年の定例会では1日単位という形式に変更して、関東・関西1回の2回の開催をいたしました。今回は、関西で11月に行なわれました第2回の定例会の報告をいたします。御一読下さい。

= 2004年度 第2回定例会レポート =

日時：平成16年11月13日（10:00～16:00）

場所：田附興風会医学研究所北野病院内きたのホール

参加者：午前の部・重症集中ケア認定看護師対象・・・18名（うち非会員2名）

午後の部・すべての看護師対象・・・62名（うち非会員3名）

【午前の部】

「研究のプロセスと実際」をテーマとして、名古屋大学医学部保険学科教授・池松裕子先生から講演をいただきました。日々行っている看護が、研究に繋がるプロセスとなることや、症例報告の重要性を教えてくださいました。

「認定看護師が取り組む研究計画書の紹介と講師のアドバイス」では、3事例の研究計画書事例発表がありました。第1回定例会では、「現場での疑問をどうやってつなげるの？」というテーマで開催されており、今回は、「その疑問をどの様に研究計画書作成までするのか？」を知ることが出来る内容でした。また、3事例の発表内容に対して活発な意見交換が行なわれ、池松裕子先生からのアドバイスをいただきました。

参加者のアンケート結果からは、「日頃の看護実践を看護研究として形にする重要性や、研究の進め方の再確認することが出来た」という評価を得られ、今後の「看護研究」に活かされる内容であったと思います。

【午後の部】

「重症患者の鎮静」をテーマに、田附興風会医学研究所北野病院麻酔科・足立健彦より講演をいただき、鎮静薬の特徴や、人工呼吸器管理中の鎮静レベルと鎮静状態の評価方法（Ramusay 鎮静スコア）についてなど、重症患者を看護する上で参考となるお話を聴くことができました。

シンポジウムでは、4名のシンポジストにより、看護師の鎮静スコアの活用・インシデントレポートから鎮静にまつわる事例（患者の安全の視点から）・新しい鎮静薬として開発されたプレセデックスの薬理学的特徴についての報告がありました。他職種にわたる視点から「鎮静」の知識を深めることができたように思います。また、ディスカッションでは、患者の鎮静評価に対する疑問や、鎮静スケールに対する意見交換が活発に行われました。日々の看護において、鎮静に悩んでいる看護師は多く、「現状を何とかしたい」という熱意が伝わってきました。現場に密着した問題であったことから、今後のケアに活かされる内容であったと思います。

多くの皆様に参加をして頂き、有意義な定例会を開催することができました。

ありがとうございました。



重症集中ケア研究会公式ホームページに、是非アクセスしてみてください。
会員専用のページのほか、研究会会員以外の方にも参加していただけるよう重症集中ケア掲示板(BBS)のページも用意して、多くの方のアクセスをお待ちしています。

URL <http://www.icu-cen.com>

<編集後期>

今年度も広報では、より興味のもてる内容を考えていきたいと思います。

是非、皆様のご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

お問い合わせは、HPの広報宛にご連絡下さい。

— 今年度もよろしくお願い致します。 —